

基本理念

「全ての子どもが、いつでもどこでも自分から読書に親しむことができる環境をつくります」

基本の方針

- (1) 読書活動の環境整備・充実
- (2) 読書に親しむための機会の提供
- (3) 人材の育成と関係職員の資質の向上
- (4) 啓発活動と推進体制の整備

現状と分析

- 読み聞かせにより成長に良い影響があると認識されている
- 幼稚園・保育所や放課後児童クラブではほぼ毎日読み聞かせを行っており、家庭での読み聞かせも定着している
- 本が好きな子どもは全学年で70%を超えているが、学年が上がるにつれて読書量が減少している
- ★乳幼児期の絵本から小学生以降のひとり読みへの移行、中高生から大人への継続した読書習慣の形成が必要

第4次計画の取組の成果と課題

◇成果 ◆課題

- ◇電子書籍やWi-Fi（読書室）の導入、夏冬休み月曜開館、高校生との連携など、読書環境の整備と機会の提供
- ◇地域や幼稚園・保育所等での読み聞かせや団体貸出などによる読書に親しむ機会と資料・情報の提供
- ◇学校図書館の情報化、資料の充実などによる読書環境の整備や読書機会の充実
- ◆子ども関係の施設への団体貸出利用の増加を含め、関係団体と連携した読書環境の充実
- ◆不読が増える中高生や支援を必要とする子ども、子どもを持つ世代を含めた大人への読書啓発
- ◆図書館職員、学校司書、ボランティア等、子どもの本に関わる大人のための学習機会の拡充
- ◆ICTを活用した情報発信、大人も子どもと一緒に楽しめる電子書籍の利用の拡大

読書習慣形成のために必要な取組

旭川市独自の視点

- ・子どもから大人までの継続的な読書習慣の形成
子どもの発達段階を次の4つの世代に分けて進める
- 乳幼児期（0～6歳） ○小学生期（6～12歳）
- 中学生期（12～15歳） ○高校生期（15～18歳）
- 特に中高生に力を入れ、さらに大人が自ら読書に親しむことで子どもを育む立場として働きかけ、次世代の子どもの読書に繋げる循環型読書習慣の形成を目指す

国・道の動向を踏まえた視点

- ・多様な子どもたちの読書機会の確保
様々な特性を持つ子どもと、関わる大人に働きかける
- ・デジタル社会に対応した読書環境の整備
読書環境のICT化とそれに伴う調べ学習を支援する
- ・子どもの視点に立った読書活動の推進
子どもたちが相互に関わる自主的な読書を推進する

第5次計画の主な取組

図書館

- 多様な子どもや大人への資料の充実
- 電子書籍の学校利用やバリアフリー機能の周知
- 子どもから高齢者まで各世代への行事の展開
- 高等学校等と連携した主体的な読書活動の実施
- 子どもに関わる人材に対する研修等の拡充
- ICTを利用した情報の発信

幼稚園・保育所等

- 団体貸出利用、施設間での本の共有
- 多様な子どもたちに応じた読み聞かせの充実
- 保護者と連携した家庭での読み聞かせの促進
- 職員の資質、技術の向上
- 保育システムを利用した保護者への啓発

家庭・地域

- 団体貸出、リサイクルの活用による図書の実充
- 読み聞かせの実演による読書活動の促進
- 子育てサロンでの読書プログラム導入
- 様々な特性を持つ子どもに対する行事の実施
- 図書館と連携したボランティア等への研修の実施

学校

- 学校図書館の機能充実と図書標準の達成
- 図書館の団体貸出、電子図書館の活用
- 支援が必要な子どものための学校図書館のレイアウトの工夫
- 児童生徒の自主的・自発的な読書活動の充実
- 教職員と連携した学校司書の資質の向上
- PTA、地域、家庭と連携した読書活動の推進

協働・支援
連携・協力